

付録 1. 活動記録 (1995年から2009年)

1995年度(平成7年度) 201回-206回

第201回ガスクロマトグラフィー研究会、4月7日、日本分析化学会にて

1. 石油化学におけるキャピラリーガスクロマトグラフィーの利用と自動化(出光石油化学)小玉忠
2. プロセスガスクロによる石油類自動分析と装置の現状について(電気化学計器)市岡耕二
3. 石油類の分析のためのガスクロマトグラフィー(島津製作所)齋藤壽
4. ピッツコンの報告 (フロンティア・ラボ) 渡辺忠一

第202回ガスクロマトグラフィー研究会、6月13日、日本分析化学会にて 参加約35名

1. 第17回「キャピラリークロマトグラフィー」国際シンポジウム参加報告 竹内正博
2. GCによる有機組成分析(東レリサーチセンター)荻野純一
3. GC/AED、FTIRの紹介(横河アナリティカルシステムズ)小沢りみ子

第1回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7月19-21日、東京都立大学、定員40名
キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎・応用と実習

第203回 Separation Sciences '95 - 講演-6月15, 16日、共立大学
環境分析とガスクロマトグラフィー(横浜国立大学)加藤龍夫

第204回ガスクロマトグラフィー研究会-工場見学会-8月25日、生麦 キリンビール工場見学、参加約30名

ガスクロマトグラフィー研究会-200回記念講演会と表彰-9月20日、北トピア
ガスクロマトグラフィー研究懇談会200回の歩み(1958年~1995年)を出版
200回記念特別講演会と表彰を実施

第205回ガスクロマトグラフィー研究会、12月4日、日本分析化学会会議室

1. 「ネガティブ化学イオン化法」代島茂樹
2. Transportable GC/MSの展示、説明(ニューインストルメント)中川
3. より新しいGCの紹介 齋藤壽

第206回ガスクロマトグラフィー研究会 -総会と講演会-1996年2月2日、日本分析化学会、参加約45名

1. "Further development at the inlet of capillary GC" Dr. K.Grob
2. AEDの紹介(横河アナリティカルシステムズ)小澤
3. メタルキャピラリーカラムの紹介(フロンティア・ラボ)森川正巳
4. マルチ キャピラリーカラムの紹介(レステック)Mr. McCandless

分析化学会の会議室での開催はほぼ満席状態が続く。200回記念誌を発行、表彰を行なう。会員数76名である。

1996年度(平成8年度) 207回-214回

第207回ガスクロマトグラフィー研究会、4月17日

1. 固相マイクロ抽出法(SPME)による抽出/濃縮:GCへの導入(シグマアルドリッチジャパン)福永徳人
2. メンブレン固相抽出法の原理と応用(住友スリーエム)栗山清治
3. 液滴による気体試料サンプリング法について(都立大工)保母敏行
4. ポータブルガスクロマトグラフについて(パーキンエルマージャパン)白根義治

5. ドライ ELCD の紹介(テクノインターナショナル)野口政明

第 208 回 Separation Sciences SS'96 —講演—6 月 6,7 日、東京都立大学(GC懇が担当)

火災原因調査における GC の活用(東京消防庁)塩川芳徳

付設ワークショップ:暮らしを支える分析化学、で GC 装置を展示、分析のデモを行った。

第 209 回ガスクロマトグラフィー研究会 —講演会—6 月 19 日

主題:クロマトグラフィーにおけるパソコンの利用

1. クロマトグラフィーを用いた自動検索システム(花王)増川克典
2. ケモメトリックスの現状と将来展望(お茶大・ケモメトリックス会長)藤枝修子
3. データの規格化と市販ソフト(クロマト用)の上手な利用法(GL サイエンス)山地武広
4. GC における保持時間の予測について(ユニフレックス)加藤肇

第2回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7 月 22 日～24 日、東京都立大学

第 210 回ガスクロマトグラフィー研究会—工場見学会と講演—8 月 30 日、東京都下水道局落合処理場

高度処理技術と水質検査(下水道局)船越泰司

第 211 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9 月 19 日、日本分析化学会 第45年会

自動車排気ガスと自動車燃料の分析(日本自動車研究所)秋山賢一

第 212 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—10 月 18 日

主題:ガスクロマトグラフィーの最近の話題

1. GC による最近のガソリン分析-特石法に関連して(出光興産)綿貫博亮
2. GLP/GMP と分析機器のバリデーション(島津製作所)小林章一
3. データ処理装置のバリデーションについて(GL サイエンス)平松由香
4. 高速 GC(フロンティア・ラボ)穂坂明彦
5. 試料導入システム(島津製作所)齋藤壽

第 213 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 19 日、国立公衆衛生院

講演主題:空気中の揮発性有機物の GC 分析

1. 航空機観測のための極低濃度(ppb レベル)の揮発性有機化合物の GC 分析(カリフォルニア大学)Dr.I.D.Ray
2. ガス分析の基礎(大陽東洋酸素)荻野博
3. 大気中揮発性化合物の GC 分析の歴史(国立公衆衛生院)渡辺征夫
4. 大気中の揮発性有機物の基準について(環境庁大気保全局企画課)宮崎正信

技術講演

1. 簡易モニターによる多項目測定を紹介(グリーンブルー)皆川直人
2. 固体捕集—加熱脱着法—の上手な使い方(パーキンエルマー)世古民雄
3. 大気濃縮装置と GC/MS を用いた VOHAPs の分析(横河アナリティカルシステムズ)滝川義澄
4. 大気中有害有機物質の自動分析(電気化学計器)前田恒昭
5. 大気分析におけるキャニスター及び周辺装置の現状(GL サイエンス)小川茂
6. GC/MS による大気分析システム(島津製作所)橘和丘陽

第 214 回ガスクロマトグラフィー研究会 —総会と講演会—1997 年 2 月 28 日

1. GC/MS による水質分析(都立衛生研究所)中川順一

トピックス:EPC 装備の GC の再現性について(横河アナリティカルシステムズ)羽田三奈子

214 回が重複、この年から 12 月の講演会を特別講演会とし実習で得た収入を会員還元する。
SS で市民講座を開催し分析化学の普及に努める。
研究会の講演主題を決め講演会形式とするなどいろいろな取り組みを行う。

1997 年度(平成 9 年度) 214 回-222 回

第 214 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—4 月 23 日、日本分析化学会会議室

主題 最近話題の高感度検出器 I、その特性と応用

1. パルス放電型検出器(イーエスディーラボラトリ)水島敏雄
2. 表面電離検出器(島津製作所)有本博三、(国立環境研)藤井敏博
3. 硫黄化学発光検出器(横河アナリティカルシステムズ)大塚剛史

第 215 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—6 月 25 日 日本分析化学会会議室

1. 醤油の香り(キッコウマン)佐々木正興
2. 花の香り成分の検索とHS-GC(資生堂)蓬田勝之
3. ヘッドスペース分析の香料分析への応用(横河アナリティカルシステムズ)佐久井徳広
4. 国際学会参加報告、CC&Eに参加して(都衛研)水石和子

第 216 回 Separation Sciences SS'97—講演—7 月 3-4 日、千葉大学

薬物測定におけるGC, GC/MS利用技術の進歩(三菱化学ビーシーエル)植木真琴

第 3 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7 月 23-25 日、東京都立大学

第 217 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演—8 月 27 日、通産省製品評価技術センター(岡本恵司)

DNAの解析手順について (製品評価技術センター)山崎

第 218 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—日本分析化学会46年会、10 月 7 日、東大駒場キャンパス

大気中の有害物質の分析法(川崎市公害研究所)鈴木茂

第 220 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—10 月 17 日、日本分析化学会会議室

主題 最近話題の検出器 II

1. ELCD(気相式電気伝導度検出器)(国立公衆衛生院)渡辺征夫
2. AED (原子発光検出器)とマイクロECD(横河アナリティカルシステムズ)舟木和久
3. 新検出器(PID?) (日立サイエンスシステムズ)栗田信二

第 221 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 5 日、国立公衆衛生院

1. GCによる農薬分析の現状と将来展望(日大、生物資源科学)武田明治
2. 食品中残留農薬のGC分析(都立衛生研究所)永山敏広
3. 農薬による大気汚染の測定法と調査事例(横浜国大・環境科学研究センター)花井義道
4. 土壌及び水中の農薬分析(残留農薬研究所)小田中芳次
5. 農薬のGC分析とその関連技術について(技術講演)
 - 1) 農薬の標準品について(最近の話題)(林純薬)木村良夫
 - 2) 固相抽出法の現状と課題(GLサイエンス)古野正浩
 - 3) PTV/GCを用いた自動大量試料導入法の残留農薬分析への適用(島津製作所)芝本繁明

4)リテンションタイムロッキングと農薬分析(横河アナリティカルシステムズ)山上仰.

第 222 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会、表彰—1998 年 2 月 27 日、都食品環境指導センター
1997年度ガスクロマトグラフィー研究賞および技術賞の授与、および受賞講演
研究賞

1. ヘッドスペースガス大量導入法による揮発性有機化合物の高感度分析法の開発(千葉衛生研究所)日野隆信
2. ガスクロマトグラフィーによる有機金属化合物の高感度分析法の研究(都立衛生研究所)水石和子
技術賞

1. ガスクロマトグラフィー用金属キャピラリーカラムの開発と実用化(フロンティア・ラボ)森川正巳
2. 最近のガスクロマトグラフ技術とガス分析について(横河アナリティカルシステムズ)山下暁

本人が米国に出張中のため代島委員が代りに賞を受け取り、講演は次回に行う事になった。

3. PTVを用いた大量試料導入によるキャピラリーGCの高感度化(島津製作所)芝本繁明
講演後に食品環境指導センターを見学

運営委員の分担執筆になる「キャピラリーガスクロマトグラフィー—基礎と応用—」朝倉書店(1997)出版。
以後、キャピラリークロマトグラフィーの実習でテキストとして配布

1998 年度(平成 10 年度) 223 回-230 回

第 223 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—4 月 22 日、分析化学会会議室

最新の GC のハードについて(横河アナリティカルシステムズ)北村昭弘

最新の GC のハードについて(島津製作所)小森享一

トピックス:ピッツバーグコンファレンス 98 にみる GC の状況(GLサイエンス)倉野光弘

製品紹介、バリアン GC の特徴—パルス FPD など(バリアンジャパン)秋葉義弥

表面弾性波検出器を搭載した超高速ガスクロマトグラフ(計算機科学研究所)松田利夫

224 回 Separation Sciences SS'98—講演—

GC はどこまで進歩するか(東京都立大学)保母敏行

225 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—6 月 26 日、ゆうほうと

講演主題「室内空気汚染の現状と測定方法」(国立医薬品食品衛生研究所)村松年郎

トピックス:第 20 回キャピラリークロマトグラフィー国際シンポジウム参加報告(電気化学計器)前田恒昭

製品紹介:島津製作所、横河アナリティカルシステムズ、GLサイエンス、パーキンエルマー

第 4 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7 月 29-31 日、東京都立大学

226 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演—8 月 28 日、日本自動車研究所

1. JCAP(日本版オートオイルプログラム)の概要(日本自動車研究所)小林伸治

2. 自動車排気、燃料のガスクロ分析(同上)秋山賢一

3. 自動車排気ガス中の個別成分の計測とその問題点(日本自動車工業会)田中俊明

227 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—日本分析化学会第 47 年回—10 月 7 日、岐阜大学

有機スズ汚染とバイ貝の Imposex 現象(都立衛生研究所)竹内正博

228 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—10 月 30 日、分析化学会会議室

講演主題:最近のパイロライザーGC

1. パイロライザーGC 分析の現状(名古屋大学)大谷肇
2. トピックス:パイロライザーよもやま話(横河アナリティカルシステムズ)貝瀬光男
3. 製品紹介:フロンティア・ラボ、日本分析工業、島津製作所

第 229 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 4 日、国立公衆衛生院

講演主題「内分泌攪乱化学物質の GC 分析」

1. 内分泌攪乱物質の概要(国立公衆衛生院)内山巖
2. 外因性内分泌攪乱物質と分析科学(星薬科大学)中澤裕之
3. 環境水中のフタル酸エステル、アルキルフェノール及びビスフェノール A の分析(都衛生研究所)鈴木俊也
4. ノニルフェノールおよびオクチルフェノールの生物濃縮実験と GC/MS 分析(滋賀県環境センター)津田泰三
5. ムラサキイガイ中の有機塩素化合物の分析(神奈川県環境科学センター)飯田勝彦
6. エストラジオール 17-β の分析(環境管理センター)鳥貝真
7. 内分泌攪乱物質の標準品について(林純薬)木村良夫
8. 内分泌攪乱物質分析における固相抽出法と GC 大量試料注入法の利用(GL サイエンス)佐々野遼一
9. 内分泌攪乱物質分析の GC 条件(横河アナリティカルシステムズ)佐久井徳広
10. 内分泌攪乱物質分析における負科学イオン化法 GC/MS の応用(島津製作所)宮川治彦
11. 内分泌攪乱物質分析の磁場型及び四重極 MS におけるデータ比較(日本電子)上田祥久

第 230 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—1999 年 2 月 26 日、分析化学会会議室

表彰と講演

功績賞:高純度ガス中不純物測定法の開発(大陽東洋酸素)荻野博

研究賞:純試薬中不純物の GC 分析(物質工学技術研究所)堀本能之

技術賞:ガスクロマトグラフ各種応用システムの開発(島津製作所)安井茂夫

光イオン化検出器を用いる微量不純物分析システムの開発(日立サイエンスシステムズ)永井久晃

K. Grob 著、ガスクロマトグラフィー研究懇談会誌「CGCにおける試料導入ガイドブック」丸善(1998)を出版

1999 年度(平成 11 年度) 231 回-236 回

第 231 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—4 月 23 日、分析化学会会議室

講演主題 同位体分析

1. ガスクロマトグラフ/同位体比質量分析計(GC/IRMS)を用いた化合物別同位体分析(東京都立大学)山田桂大
2. 安定同位体 MS について—GC/C/IRMS,他」(日本酸素)小川康夫
3. 安定同位体マスの最近の話題(サーモクエスト)松本普

Separation Sciences SS'99—講演—6月 10,11 日、東京理科大

第 232 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—6 月 30 日、日本分析化学会会議室

講演主題 GC 分析法のバリデーションについて

1. 分析化学計測における不確かさの評価(物質工学工業技術研究所)高津章子
2. 自動車排出ガスの GC 分析の精度管理(日本自動車研究所)鶴賀文子
3. 我が国の標準物質の整備状況と国際対応について(物質工学工業技術研究所)野村明

第 233 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演—8 月 27 日、関東化学草加工場

高純度試薬の生産とその現場

第 234 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9月8日、分析化学会第48年回、甲南大学
キャピラリーカラムへの液体試料の注入、注入口で何が起きているのか（奈良衛研）陰地義樹

第 235 回 40 周年記念海外研究者の招待講演会、1999年11月8日、島津製作所イベントホール
1. スプリット・スプリットレス注入口で何が起きているか、（食品分析研究所、スイス）Dr.Konard Grob
2. GC の幅広い応用のための—新しいサンプリングと検出法の開発—（テルアビブ大学）Dr.Aviv Amirav

第 5 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7月21-23日、東京都立大学

第 236 回ガスクロマトグラフィー研究会 -特別講演会-12月3日国立公衆衛生院講堂
講演主題「人命に係わる危機管理における化学分析の役割と実際」
1. 毒性物質の人間への発現機構（国立公衆衛生院）福原守雄
2. 健康危機管理について（都立衛生研究所）竹内正博
3. 毒カレー事件のX線鑑定はこうして行われた（東京理科大学）中井泉
4. 犯罪鑑識とガスクロマトグラフィー（科学警察研究所）鈴木真一
5. 松本サリン事件における原因物質の検索とその分解物の挙動（長野県衛生公害研究所）佐々木一敏
6. 関連測定機器の紹介とその応用
1)ポータブル GC/MS HAPSITE（ライボルト）奥田泰資
2)可搬型 GCMS VIKING 573 の紹介（ニューリー・インスツルメンツ）中川秀樹
3)携帯 GC（パーキンエルマー）世古民雄
4)HSGC の爆弾検知器（日本サーモエレクトロン）清水明
5)携帯型 FTIR（松下インターテクノ）杉野晃男

第 237 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会の予定であったが2月に開催できず翌年度とした。
この頃は分析化学会年回でのガスクロ関連の発表件数が少なく、半日のセッションがやっとの状況である。

2000年(平成12年度) 238回—243回

第 238 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—4月14日、都立衛生研究所
主題:GC 分析におけるコンタミネーションとマトリックス効果について
1. 室内空气中フタル酸エステル類の分析における問題点(都立衛生研究所)瀬戸博
2. 試料導入と検出におけるマトリックス効果(GLサイエンス)佐々野遼一
3. キャニスターによる VOC 測定におけるマトリックス効果(横河アナリティカルシステムズ)落合信彦

第 239 回 40 周年記念講演会と表彰、6月7日、北トピア
1. GC による環境分析の変遷(横浜国立大名誉教授)加藤龍夫
2. GC/MS 法の実用化と発展(成蹊大学名誉教授)飯田芳男
3. 大気中及び排ガス中の揮発性有機化合物の分析(国立公衆衛生院)渡辺征夫
4. 多目的パイロライザーと金属キャピラリーカラムの開発(フロンティア・ラボ)渡辺忠一
5. GC による有機スズ化合物の高感度・迅速分析(都立衛生研究所)竹内正博

第 6 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7月26—28日、東京都立大学工学部

第 240 回クロマトグラフィー研究会—見学会と講演—8月25日、金町浄水場
金町浄水場における高度浄化処理と水管理について

第 241 回 Separation Sciences SS2000—講演—6 月 8,9 日、台東区民会館
環境ホルモンの分析(国立環境研究所)安原昭夫

分析化学会第 49 年会—講演—9 月 26 日、岡山大学
環境中の道物質検索法(岡山県環境保健研究所)剣持堅志

第 242 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 1 日、薬業保健会館

講演主題:ガスクロマトグラフィーの先端技術

基調講演:ガスクロマトグラフィーの最先端(都立大学)保母敏行

主題講演 1:最近のキャピラリーカラムについて(GL サイエンス)奥野正彦

2:イオントラップ型 GC-MS によるダイオキシンの迅速分析(荏原製作所)剣持由紀夫

技術講演

ハイフネイティッド技術 1:GC-MS/MS 分析の有効性(日製産業)高橋英夫

ハイフネイティッド技術 2:マルチディメンショナル GC の実際(横河アナリティカルシステムズ)落合伸夫

高速化技術:(島津製作所)小森享一

モバイル技術:(インフィコン)奥田泰資

周辺技術 1:固相抽出-大量注入/GC-MS による自動オンライン分析(GL サイエンス)小川 茂

周辺技術 2:ダイオキシン前駆体自動分析(電気化学計器)前田恒昭

周辺技術 3:マイクロジェット・クライオトラップの開発(フロンティア・ラボ)穂坂明彦

周辺技術 4:SOL-GEL 技術の新展開(SGE)江崎達哉

第 243 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—2001 年 3 月 1 日、都立衛生研究所

GC 功績賞受賞講演:知っておきたい Dr.Grob の試料導入技術

1. スプリット注入法(GL サイエンス)古野正浩

2. スプリットレス注入法(横河アナリティカルシステムズ)代島茂樹

3. PTV 法(島津製作所)齋藤壽

研究会の参加者が増加したため会場を都立衛生研究所に移した。特別講演会の会場を薬業健保会館の利用を開始した。

40 周年を記念して懇談会を支えてきてくれた多くの方々を感謝の意をこめて表彰した。

2001 年(平成 13 年) 244 回—248 回

第 244 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—5 月 11 日、都立衛生研究所

講演主題:GC 分析の前処理

1. 食品中のダイオキシン分析-試料調製法について(都立衛生研究所)牛尾房雄

2. 誘導体化法について(東京化成工業)金子広之

3. 都衛研の見学 1.ケミカルハザード室(ダイオキシン分析)

2.環境化学研究室(室内空気分析)

3.有害物化学研究室(有機スズ分析)

Separation Sciences SS2001—講演—6 月 14 日、東京都立大学、参加 198 名(GC懇担当)

名誉講演:ガスクロマトグラフィーの思い出(都立大学名誉教授)荒木峻

講演:最新のガスクロマトグラフィー(都立大学)保母敏行

招待講演:台湾における環境分析の現状(国立台湾師範大学)呉 家誠

研究発表

アットカラム濃縮を用いた GC-MS, GC-MS/MS による環境分析への応用(GL サイエンス)武井義之
サンプル前処理法の最新技術:SBSE 法とは(横河アナリティカルシステムズ)落合伸夫
ガスクロマトグラフィーの思い出(都立大学名誉教授)荒木 峻
水中の揮発性有機化合物(環境ホルモン)の GC/MS による分析(東亜ディーケーケー)○前田恒昭・杉山真弓
GC 分析における不確かさの見積もり(島津製作所)○岡村嘉之・和田豊仁・日比野裕一・橘和丘 陽
ショートキャピラリーカラムによる高速分析(島津製作所)○和田豊仁・小森亨一他
GC/MS によるアクリルアミドの分析検討(島津製作所)○斎藤良弘・和田豊仁他
光学異性体分離用カラムによる誘導体化の違いによる分離挙動(東京化成)○金子広之他
オルト・メタ・パラ異性体分離用キャピラリーカラムの分離挙動(東京化成)○内田由美子・金子広之
魚介類中の有機スズ化合物と有機塩素系農薬の分別定量(都立衛研)○小野恭司・水石和子・竹内正博
東京湾の有機スズ汚染動態(都立衛研・水産大)水石和子・○竹内正博他
フタル酸エステルの拭取り試験(都立衛研)○水石和子・小野恭司・伊藤弘一・竹内正博

第 7 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7 月 25—27 日、東京都立大学工学部

第 245 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学と講演会—8 月 31 日、東京消防庁消防科学研究所、参加約 40
消防技術研究開発の現況と成果 (第一研究室) 長谷川

第 246 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演— 11 月 23 日、日本分析化学会第 49 年会、熊本大学
質量分析を用いた環境中微量化学物質検討(北九州市環科研)花田喜文

第 247 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 7 日、国立公衆衛生院 参加 65 名

1. 臨床検査における化学分析の役割(エスアールエル 医化学分析センター)榎佐和子
2. ガスクロマトグラフィー・質量分析法(GC/MS)を用いる先天性代謝異常症の診断システムの構築(金沢医科大学)久原とみ子

ビデオ紹介:GC 分析法の紹介(元物質工学工業技術研究所)竹田一郎

主題講演

1. 有害物質に対する生体反応解明へのクロマトグラフィーの利用(日本バイオアッセイ研究センター)大西誠
2. 尿中、血中の VOCs の GC 計測(国立公衆衛生院)村山留美子
3. 質量分析をツールとする生体試料中の薬物・毒物およびその代謝物の分析(三菱化学ビーシーエル)植木真琴
技術講演

1. SBSE(Stir Bar Sorptive Extraction)を用いる GC/MS 法の紹介(横河アナリティカルシステムズ)中村貞夫
2. ダイナミックヘッドスペース・GC/MS 法による環境ホルモン調査項目の分析(東亜 DKK)前田恒昭
3. 機器分析による口臭測定(島津製作所)喜多純一他
4. SPME を用いたカビ臭の分析及びその他の分析例紹介(日立ハイテクノロジー)本田俊哉
5. 室内環境における建材からの発生ガス測定手法の紹介(GL サイエンス)星野邦広
6. 室内空気汚染物質の測定、固相吸着-加熱脱着-GC/MS(チューブ法)((パーキンエルマー)

第 248 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—3 月 8 日、都立衛生研究所

講演会 主題:上水試験におけるガスクロマトグラフィーの役割

1. 最近の水道水の分析について(都立衛研)中川順一
2. 上水試験における GC/MS による農薬類等の分析について(横河アナリティカルシステムズ) 山上仰
3. 上水における揮発性有機化合物の分析技術(東亜ディーケーケー)前田恒昭
4. GC/MS による上水試験方法の精度管理(島津製作所)橘和丘陽、和田豊仁、斎藤良弘

2002年(平成14年度)第249回-255回

第249回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—5月9日、都立衛生研究所

主題: においの分析、においセンサーについて

1. においセンサーについて(NTT生活環境研究所)瀬山倫子
2. 良い香りのガスクロマトグラフィー(塩野香料)池田信夫
3. 臭覚測定法について(東京都立環境科学研究所)上野広行
4. 関連報告ディスカッションおよび関連製品紹介
5. スマートセンシングシステムによるにおいの客観的評価(プライムテック KK)石田
6. におい識別装置 FF-1 について(島津製作所)喜多

第253回 Separation Sciences SS2002—講演—7月12-13日、東京都立大学講堂、参加119名

付設市民分析化学講座: 参加92名

ガスクロマトグラフィーにおける検出器の最前線—元素選択性検出器について—(都立大学)中釜達朗

第8回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、—講演—7月30日-8月1日、東京都立大学

第251回ガスクロマトグラフィー研究会—工場見学会と講演—8月30日、国立環境研究所

概要説明: 紹介ビデオ「国立環境研究所」篠木課長補佐(大山ホール)

見学 環境ホルモン総合研究棟 化学物質管理区域

循環・廃棄物研究棟 後藤室長(循環技術システム研究開発室)

中島研究員(循環技術システム研究開発室)

講義 環境科学における化学分析の役割 安原室長(循環資源・廃棄物試験評価研究室)

循環型社会と安全性評価 後藤室長(循環技術システム研究開発室)

第252回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9月19日、日本分析化学会第51年会

連続フロー型質量分析計による高感度安定同位体比測定法の開発と地球化学研究への応用(北海道大学)角皆潤

第250回 GC 研究懇談会 250 回記念: 2002 年日中環境分析化学研究会、10月24-27日、中国科学院、北京

日中環境分析化学研究会/2002 年中日環境分析化学検討会、

討論主題: 分離科学と環境分析、公用語: 英語

保母教授の所から林金明教授が中国に帰国、GC研究室設立、出席者: 日本21名、中国60名

第254回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会と表彰—12月6日、薬業健保会館

ガスクロマトグラフィー生誕50周年記念、講演主題: 食物の安全管理とクロマトグラフィー

基調講演

1. 最近の食物安全性を巡る問題 (国立健康栄養研究所)梅垣敬三
2. 食品の安全性に関連する規格基準(国立医薬品食品衛生研究所)米谷民雄

主題講演

1. 食品中の残留農薬などの分析(長野県衛生公害研究所)月岡忠
2. 動物性食品中の有機塩素系化合物の分析(東京都衛生研究所)堀井昭三
3. 食品用器具・容器包装中の残存化学物質の分析(国立医薬品食品衛生研究所)河村葉子

技術講演

1. 冷凍試料粉碎器の開発(日本分析工業)大栗直毅
2. 固相抽出素子”Magic Chemisorber”の特徴(フロンティア・ラボ)渡辺忠一

3. 新規試料導入手法 DTD/DMI(Direct Thermal Desorption/Difficult Matrix Introduction)による農薬成分分析 (GLサイエンス)武井義之
4. マイクロスケール パージ&トラップ(MPT)-GC/MS(西川計測)古舘肇
5. GC/MS による食品中の残留農薬分析(島津製作所)橘和丘陽
6. パルス型炎光光度検出器による残留農薬の高感度分析(日立サイエンスシステムズ)川原井雅子
表彰式

第 255 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—2003 年 2 月 28 日、日立ハイテクノロジーズ本社

1. Ion Attachment Mass Spectrometry (IAMS)関係(国立環境研・アネルバ)藤井敏博
2. 新しいコンセプトの MS など(デューン)富山浩
3. 4重極質量分析計の総括・最新状況など(島津製作所)橘和丘陽
4. 環境・食品分野における 3DQMS の有効性(日立ハイテクノロジーズ)谷川建一
5. トリプルステージ(MS/MS)四重極質量分析計の最新情報(バリアン)大川真
6. 卓上型 GC-TOF-MS GCT のご紹介(ジャスコインターナショナル)佐藤成宙

研究会開催 250 回、ガスクロマトグラフィー生誕 50 周年を迎え、記念事業を行った。国際的な視野を持ち交流をはかるべく、韓国のがスクロマトグラフ研究会と交流を計画する。回数の付け方が少し混乱した。セパレーションサイエンスの参加者が減少しはじめる。

2003 年(平成 15 年度) 256 回-261 回

第 256 回ガスクロマトグラフィー研究会、5 月 13 日、東京都健康安全研究センター(旧都立衛生研究所)
講演主題: 土壌汚染問題と化学分析の役割

1. 土壌汚染問題の社会的背景と化学分析の役割(国立環境研究所)鈴木茂
2. 分析値の精度保証と標準品(土壌中ダイオキシン類の分析)(元東レリサーチセンター)井垣浩佑
関連技術紹介: 有機物による土壌汚染の解析に適した携帯型分析計とその応用事例の紹介
1. MiniCan と GC/MS による土壌中 VOC の高感度分析(西川計測)古舘肇
2. 現場分析におけるポータブル GC/MS(インフィコン)奥田泰資
3. 土壌分析における現場分析と加熱脱着法の活用(パーキンエルマー)臼倉浩一
4. 土壌ガスサンプリング技術の実際と GC-PID/DELCD 分析(テクノインターナショナル)野口政昭

第 257 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演—8 月 27 日、ライオン株式会社小田原工場・研究所
講演: 商品開発における GC の活用事例
見学: 歯磨き製造工場、研究所内部

第 258 回 Separation Sciences SS2003—講演—7 月 23, 24 日大田区産業プラザ
キラルクロマトグラフィーとともに(キラルクロマトグラフィー研究所)大井尚文

第 9 回キャピラリークロマトグラフィー講習会、7 月 29-31 日、東京都立大学

第 259 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9 月 23、日本分析化学会第 52 年会、宮城教育大
ダイオキシン類分析法の問題点(宮城県保健環境センター)鈴木慈

ガスクロマトグラフィー生誕 50 周年記念「日韓分離研究懇談会」、10 月 16-19 日、ソウル教育文化会館
案内文: GC 生誕 50 周年を記念し、韓国の金教授の協力を得て、韓国とのガスクロマトグラフィー研究の講演会、情報交換、視察などを盛り込んだ会員サービスのための研究会を実施します。いままで、韓国

とは地理的には近いが、あまり積極的な交流は行ってきませんでした。今後、交流を密にするとともに北アジア地域の連携が図れるよう協力していきたいと考えております。

韓国側は金教授が担当します。日本及び韓国企業の協力も得て、企業と研究者間の交流を計画しております。ふるって御参加ください

討論主題「生活とGC」、公用語英語

韓国側：韓国 GC 研究懇談会、韓国分析化学会

大会会長：Lee, Dong-Sun 教授（ソウル女子大学）

事務局：金 萬九教授、Seung-Woon Myung 博士、Jae-Ho Ha 博士

第 260 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 5 日、国立保健医療科学院

講演主題：難分解性有機汚染物質(POPs など)のクロマト分析

基調講演

1. POPs などの難分解性有機汚染物質に関する最近の動向(国立環境研究所) 安原昭夫
 2. わが国における PCB 問題とその廃棄処理の進展(電力中央研究所 狛江研究所) 田中伸幸
- * ビデオ紹介「GC分析法の紹介」(元物質工学工業技術研究所)竹田一郎

主題講演

1. 国際整合性を持つ POPs 標準物質の整備状況と認証のための分析技術(産総研) 沼田雅彦
 2. 撥水剤由来の PFOS/PFOA の分析と分布実態(産総研) 山下信義
2. “包括的”2次元GCの原理と POPs 分析などへの応用」(エーエムアール) 神田広興
- 技術講演(POPs などの難分解性有機汚染物質に関する分析関連の技術と機材の紹介)
- GCMS-QP2010 による POPs の測定他6題

第 261 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—2004 年 2 月 27 日、島津製作所 東京支社

講演主題「分離と精製」

1. 香料研究における微量有効成分の分離精製(高砂香料工業)江村誠
2. 有機試薬における精製手法-高純度化を目指して-(東京化成工業)横洲博親

関連技術紹介

1. においの識別装置 FF-2A を用いたにおいの識別と質の測定(島津製作所) 青山佳弘
2. 微量成分の濃縮導入のためのシリカモリス材料(GL サイエンス) 古野正浩
3. 二次元 GC による分離と分取(ゲステル) 神田広興

2004 年度(平成 17 年度)262 回—266 回

第 262 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—4 月 28 日、都健康安全研究センター

講演主題：標準ガスについて

1. 国際的な標準物質開発とその現状(産総研) 前田恒昭
2. 標準ガスをめぐる話題(産総研) 加藤健次
3. 標準ガス作成法1. 有機ガス(産総研) 渡辺卓朗
4. 標準ガス作成法2. 無機ガス(産総研) 松本信洋
5. 標準ガス使用における注意点(化学物質評価研究機構) 丸山正暁

技術紹介

1. 半導体ガス関連分析、フッ素の干渉を排除したフッ素中の不純物分析(エアリキッド) 園部
2. 無機ガス中不純物測定(ACE) 板垣
3. 高精度ガス分析関連(JSP) 甘利

Separation Sciences SS2004—講演一、7 月 23、24 日、理科大学薬学部

環境試料分析からみた GC 分離 性能向上の光と陰(国立保健医療科学院)渡辺征夫
SS、10 周年記念で特別講演会開催される

第 10 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、8 月 3-5 日、東京都立大学

第 263 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演会—8 月 27 日、化学物質評価研究機構、参加 37 名

1. GC/MS,GC/AED 及び LC/MS/MS による環境汚染物質の微量分析法の開発、田嶋晴彦
2. 臭素化ダイオキシンの HRGC/HRMS 分析について、片岡敏行
3. 旧日本軍化学剤と関連化合物の分析、花岡成行

東京コンファレンス、ガスクロマトグラフィー講習会、8 月 31 日、幕張メッセ

1. 試料注入、渡辺征夫
2. 分離・検出、保母敏行
3. バリデーション・評価・データ処理、竹内正博

ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9 月 2 日、分析化学会第 53 年会、千葉工業大学

石油化学コンビナート周辺の揮発性有機化合物の GC/MS 連続自動分析による固定及び移動発生源の検出・寄与解析(千葉県環境研究センター)中西基晴

第 264 回 2004 年日中韓環境分析研究会：2004 China-Japan-Korea symposium on Environmental Analytical chemistry、10 月 18-21 日、Friendship Hotel (北京友誼賓館) 北京

主題：生活と環境

中国側事務局：林金明(教授):中国科学院、生態環境研究所 (China)

第 265 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 8 日、薬業健保会館

講演主題：“におい”とガスクロマトグラフィー

1. 嗅覚メカニズムと香りの分析(高砂香料)江村誠
2. 悪臭公害の特徴とその対策(都環境科学研究所)上野広行
3. 生活空間中の臭気成分の分析(ライオン)—之瀬昇
4. 悪臭物質の測定(環境管理センター)小坂芳雄
5. 食品香気の分析—新しい GC 技術“GCXGC”を中心に—(サントリー)小村啓

技術講演

1. GC と Sniffing 検出器(GL サイエンス)武井義之
2. 新しい悪臭物質濃縮・分析手法のご紹介(信和化工)小寺健三
3. 大容量ヘッドスペース・GC による匂い成分の高感度分析(西川計測)小野由紀子

第 266 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—2005 年 2 月 18 日、都健康安全研究センター

1. ダイオキシン類測定法 JIS はどう改定するか(化学物質評価研究機構)本橋勝紀
2. 2004 日中韓シンポジウム開催報告(産総研)前田恒昭
3. Real-world behavior of airborne particulate as seen from Aerosol Mass Spectrometer(Aerodyne Research) Dr.Douglas Worsnop

研究会の開催番号が少し混乱した。東京コンファレンスで講習会を担当、第一回目となりこの後継続している。各研究懇談会の協力を得て日中韓シンポジウム(CJK シンポジウム)の第一回目を北京で開催した。

2005年(平成18年度) 267回-272回

第267回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—4月21日、東京都健康安全研究センター
講演主題:天然物代謝を探索メタボローム最前線

1. CEMSによるメタボローム解析(慶應大学先端生命科学研)曾我朋義
2. 代謝物プロファイリングのバイオテクノロジーへの応用(大阪大院工学研究科)福崎英一郎
関連技術紹介
1. GCを用いた微生物同定システムの紹介(ゲステル)神田
2. 高分解能クロマトグラフィーのためのキャピラリーカラムの紹介(GLサイエンス)寺島

Separation Sciences SS2005—講演—7月28-30日、東京工業大学大岡山キャンパス、参加約120名
キャピラリーGC/MSでみた昆虫たちの化学情報化社会(京都工芸繊維大学)山岡亮平
GC関係の発表が多数あった。

第11回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、8月2-4日、首都大学東京、参加20名

第268回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演—8月26日、サントリー登美の丘ワイナリー、参加20名

1. おいしいワイン作り(サントリー登美の丘ワイナリー)棚橋博史
2. GCによる食品香気分析(サントリー生物有機科学研究所)小村啓

第269回東京カンファレンス ガスクロマトグラフィー講習会、8月30日、幕張メッセ、参加78名

1. 環境試料のサンプリングと前処理・導入(化学物質評価研究機構)工藤委員
2. 分離と検出(東京都立大学名誉教授)保母委員長
3. 分析結果の解析と精度管理(GC技研)竹内委員

第270回、日中韓環境分析研究会、2005日中韓シンポジウム、9月1日、幕張メッセ、参加約100名

主題:日本・中国・韓国の環境分析と分離分析の最前線

3ヶ国で交代で行っている環境と分析化学に係る学会であり、SSの研究懇談会が協力し、今回は大会委員長 中村洋教授(理科大)のもと、特別講演、招待講演、ランチョンセミナー、懇親会を実施し盛況に終了した。

ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9月14日、分析化学会第54回年会、名古屋大学

熱分解ガスクロマトグラフィーによる高分子材料および天然物有機分析の最近の進歩(名古屋工業大学)大谷肇

第271回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12月2日、薬業健保会館

講演主題:食品中の残留農薬に係わるポジティブリスト制度とクロマト分析

1. 農薬の種類と役割(農業環境技術研究所)與語靖洋
2. 食品に残留する農薬等のポジティブリスト制度の役割と進捗状況(国立医薬品食品衛生研究所)米谷民雄
3. 食品のポジティブリスト制度におけるGC/MS分析の役割(国立医薬品食品衛生研究所)根本了
4. 食品のポジティブリスト制度におけるLC/MS分析の役割(金城学院大学)岡尚男
5. 農薬分析の課題と現状(日本食品分析センター)中村宗知

技術講演

1. 食品分析のための前処理技術の紹介(GLサイエンス)高柳学
2. ライナー自動交換可能なPTV注入口による高マトリックス試料の大量注入(ゲステル)落合伸夫
3. 胃袋型インサートを用いたGC大量注入による残留農薬一斉迅速分析法とLC-GCシステムによる確認分析法について(雑賀技術研究所)佐々野僚一
4. エアー・フォーカシングによるPBDE等のピーク形状の改善(SGE)江崎達哉

5. 非放射線電子捕獲検出器による有機塩素系農薬分析(日立サイエンスシステムズ) 栗田信二
6. GC/MS(SIM/Scan 同時取り込み)による農薬多成分一斉分析(横河アナリティカルシステムズ)中村貞夫
7. 負化学イオン化法 GC/MS による作物中農薬の多成分一斉分析(島津製作所) 岡村嘉之
8. GC/MS/MS を用いた食品中の残留農薬多成分分析(サーモエレクトロン)上森美奈
9. GC/MS データベースを用いた農薬の網羅的測定について(西川計測) 山上仰

第 272 回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—2006 年 2 月 24 日、薬業健保会館

講演主題:オンサイト分析の最前線

1. 10 時間で 300 回の連続 GC 分析、GC/SAW の原理と応用(ビーハイブ・インターナショナル・トレーディング) 佐藤行雄
 2. ppt オーダーのリアルタイム分析、PTRMS によるガス成分の測定と GC-PTRMS によるフラグメンテーションの確認 (日本自動車研究所)秋山賢一
 3. ppq オーダーのリアルタイム分析、波長選択イオン化質量分析RIMMPAの原理と応用(IDX テクノロジーズ) 鈴木康夫
- 技術講演 6 件

日中韓シンポジウムの第2回目を分析展初日に幕張メッセの国際会議場で開催した。研究会開催時の技術講演も活発で参加者はおおむね 40 から 80 名程度、特別講演会は 100 から 150 名程度の規模となる。

2006 年(平成 19 年度) 273 回-280 回

第 273 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—4 月 27 日、薬業健保会館、参加 45 名

1. ガスクロマトグラフを用いたヒト発汗成分・皮膚ガス成分の検知、及び得られるヒトの身体情報—汗のリアルタイム分析、(名古屋工業大学)津田孝雄
 2. 毒物事件、化学テロとガスクロマトグラフィー(警察庁科学警察研)瀬戸康雄
- 技術講演
1. IAMS 装置と最新応用例の紹介 (バリアンテクニクス)
 2. CWA(Chemical Warfare Agents)分析の実際 (横河アナリティカルシステムズ)代島茂樹
 3. GMP 環境下における研究者の安全・健康と実験室のセキュリティ(入退室管理システム紹介)(日立製作所)

第 274 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—6 月 30 日、日立製作所秋葉原ダイビル、参加 60 名

講演主題:電子捕獲検出器(ECD)の基礎と応用:シッカリ学んでシッカリ使おう

準拠法と基礎理論

1. 放射線障害防止法の改定について(島津製作所)小谷博
2. ECD の検出原理と応答特性(GC 技術研究所)竹内正博

技術講演1:装置—

1. 放射線 ECD について(横河アナリティカルシステムズ)代島茂樹
2. 非放射線 ECD について(日立サイエンスシステムズ)栗田信二

技術講演2:応用分析

3. 大気環境分析への応用(国立保健医療科学院)渡辺征夫
4. 農産物中の有機塩素系残留農薬分析(日立ハイテクノロジーズ)河原井雅子
5. オンライン GPC/GC による絶縁油中低濃度 PCB の簡易分析法(島津製作所)小林信弥

第 12 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会(講演のみ)8 月 1 日、首都大学東京 南大沢キャンパスにて

「キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論」 保母敏行(都立大学名誉教授)

「キャピラリーカラムと試料導入法」 齋藤壽(島津製作所)

「検出器の原理と使い分け」 竹内正博(GC技術研究所)
「GC/MS の基礎と応用例」 代島茂樹(横河アナリティカルシステムズ)
「各種手法、応用例に関する話題提供」 GC研究懇談会運営委員会メンバー
参加 49 名

第 275 回ガスクロマトグラフィー研究会—見学会と講演— 8 月 22 日、住化分析センター、参加30名
各種放散試験法と国内外の動向(住化分析センター千葉事業所)野中辰夫
CNET 法によるアルデヒド類の高精度評価技術(住化分析センター大阪事業所)北坂和也

第 276 回ガスクロマトグラフィー研究会—日中韓環境分析研究交流会シンポジウム—、9 月 14-18 日、西南大学
(中国、重慶)

特別講演 3 件と招待講演が 17 件、オーラル発表 41 件、ポスター発表 38 件という数であった。直前に分析化学会の若手交流会が AYACS2006 を開催し、東南アジアからの参加者も残って参加したため日本の留学生と中国に留学している東南アジアの留学生との交流も同時に図ることができた。参加者は中国約 80 名、日本 22 名、韓国 3 名、AYACS から 3 名と盛況であり、会期中を通じて活発な研究討論と情報交換、懇親がはかられた。中国の参加大学数は 19、研究機関は4機関であった。趣旨に賛同いただいた研究懇談会は、GC、LC、IC、FIA、環境分析の各研究懇談会である。

第 277 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9 月 20 日、分析化学会第 55 回年会、大阪大学にて、参加60名
環境分析におけるクロマトグラフィー／質量分析法の応用(大阪府環境情報センター)今村清

第 278 回 Separation Sciences SS2006(分離と検出の科学)—講演—10 月 26—27 日、首都大学東京(GC懇担当)
名誉講演:VOC 研究と共に30年(帝京科学技術大学)田中敏之
講演:GC の高速化と高分解能化の新たな展開(ゲステル)落合信夫

第 279 回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12 月 8 日、薬業健保会館、参加約 100 名
講演主題:クロマトグラフィーで迫る話題物質の分析

- 1.最近の話題物質概論(産業技術総合研究所)前田恒昭
- 2.食品中残留農薬の分析(東京都健康安全研究センター)高野伊知郎
- 3.土壌の油汚染について(ダイヤ分析センター)杉田和俊
- 4.臭素系難燃剤と有機臭素系化合物の微量分析技術と課題(島津テクニサーチ)高管卓三
- 5.直接加熱導入 GCxGC-MS による沿道大気中ナノ粒子の分析(ゲステル)落合伸夫

特別講演

Miniaturized, automated and solvenless sample preparation techniques applied to quality control in food and consumer protection (RIC & Ghent University) Dr. Frank David

技術講演

- 1.多機能パイロライザーを用いた熱脱着 GC/MS による PBDEs の迅速定量(フロンティア・ラボ)武田紫穂理
- 2.農薬及び環境ホルモン用データベース(926 化合物)を用いる食品中残留農薬の GC/MS スクリーニング分析(横河アナリティカルシステムズ)中村貞夫
- 3.トリプルデータベースを利用した GC/MS による環境汚染物質等の包括的分析(西川計測)山上仰
- 4.GC試料注入口冷却によるプレカラム濃縮法(島津製作所)芝本繁明
- 5.超高速 GC-TOFMS の展開例(LECO ジャパン)盛正実

第 280 回ガスクロマトグラフィー研究会 —総会と講演会—2007 年 2 月 23 日、薬業健保会館
講演主題:GC キャピラリーカラムの最近の動向

GC キャピラリーカラムの最近の進歩(島津ジーエルシー) 森川正己

技術講演

1. 繊維を充填したキャピラリーカラム(信和化工) 小寺健三
2. Agilent GC/MS 用カラムについて “農薬類の分離の比較”(アジレント・テクノロジー) 内藤厚子
3. 新規高極性カラム 90%シアノプロピルポリシルフェニレンカラム(SGE) 藤井大将
4. 最近の光学異性体分離カラム(GL サイエンス) 千賀芳紀
5. 迅速 GC/MS 分析に対応した最新のキャピラリーカラム(バリアンテクノロジーズ) 大川真

都合によりキャピラリーガスクロマトグラフィー講習会が講義のみとなったが受講者 42 名と盛況であった。
SS2006 の開催が秋になった。

2007 年度(平成 19 年度) 281 回-287 回

第 281 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—6 月 7 日、薬業健保会館、参加約 100 名

講演主題:自動車内装材のVOCの分析

1. 車室内空気成分に対する自動車業界の取り組み(いすゞ中央研究所) 達晃一
2. 自動車部品から放散する空気成分の測定法(いすゞ中央研究所) 達晃一
3. 車室内空気質と VOC 測定法(豊田中央研究所) 岩井幸一郎

技術講演

1. 自動車内装材料から放散する SVOC の簡易分析法(アジレント・テクノロジー) 中村貞夫
 2. サンプリングバッグ法/チャンバー法による自動車内装材からの放散ガス測定(GL サイエンス) 岩崎貴
 3. におい識別装置 FF-2A による、自動車室内大気質の連続モニター(島津製作所) 喜多純一
- その他、ガスクロ Q&A 出版にあたり、質問内容の紹介、保母敏行

第 13 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、8 月 1-3 日、首都大学東京

—応用(アプリケーション)のための基礎—

- ① 「キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論」(都立大学名誉教授)保母敏行
- ② 「キャピラリーガスクロマトグラフィーにおけるカラム、試料注入法」(島津製作所)和田豊仁
- ③ 「ガスクロマトグラフィーにおける試料前処理法、導入法、装置」(GL サイエンス) 武井義之
- ④ 「ガスクロマトグラフィーにおける検出器の原理と使用法」(GC技術研究所) 竹内正博
- ⑤ 「GC/MS の基礎と応用例」(アジレント・テクノロジー) 代島茂樹

第 282 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—9 月 7 日、警察庁 科学警察研究所、参加30名

講演主題:鑑定・検査、犯罪の防止のためのクロマトグラフィー

1. 薬物プロファイリング(科学警察研究所) 井上博之
2. 毒物事件、化学テロと分析化学(科学警察研究所) 瀬戸康雄
3. Clinical Forensic Toxicology “毒の検証”(日本医科大学) 仁平信
4. ケモトリックスを使用する際の注意点とパターン認識のコツ(GL サイエンス) 山地武広
5. Calibration Locking Database 法を用いた GC/MS による微量有機化合物の検出と定量(西川計測) 山上仰

第 283 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9 月 19 日、日本分析化学会第 56 回年会、徳島大学、参加 60 名
食品中の正確かつ効率的な残留農薬分析(元神戸検疫所) 平原嘉親氏

第 284 回ガスクロマトグラフィー研究会—日中韓環境分析研究交流会シンポジウム、11 月 5-7 日、韓国齊州島
第 9 回 ASIANALYSIS の特別セッションとして開催

40 周年記念事業として始まった海外交流の 6 回目で、CJK Symposium の形になって 4 回目の開催です。日本から

25名、中国から10名の参加者があり、発表33件(口頭23件、ポスター10件)、中国・韓国からの参加者の研究レベルも高く、発表分野も多岐にわたり様々な分野で大いに情報交換を行うことができました。会場には100名程度の聴講者がおりました。分析化学会から上野景平基金を頂き、GC、LC、FIA、IC 懇の各委員長の参加を得た他、環境分析研究懇談会や企業をはじめ多くの方々の支援と協力を得ました。

第285回 Separation Science SS2007—講演—11月27、28日、千葉大学、参加約100名
ECD-GCの応答特性とその有効利用について(GC技研)竹内正博

第286回ガスクロマトグラフィー研究会—特別講演会—12月7日、薬業健保会館、参加約100名
講演主題:地球規模の環境汚染」

基調講演

1. 黄砂の長距離輸送と東アジアの大気環境(気象研究所)三上正男
 2. POPs および POPs 候補物質の地球規模の汚染の過去復元と将来予測(島津テクニサーチ)高菅卓三
- 主題講演

1. 塩素系芳香族化合物の全異性体分析と環境モニタリング(兵庫県健康環境科学研究センター)中野武
2. PFOSの測定と汚染の現状(岩手県環境保健研究センター)齋藤憲光
2. 大気中の有害大気汚染物質の安定同位体比計測による発生源推定法の研究(日本自動車研究所)秋山賢一

技術講演

1. シリンジニードル一体型固相カートリッジ(MEPS)を用いた新しい前処理の形—MEPSの紹介(SGE)中島信行
2. ポリマーの光・熱・酸化劣化評価法のための、新しいオンライン UV/Py-GC/MS 法の開発といくつかの応用分析例(フロンティア・ラボ)穂坂明彦
3. GC/MS/MS 分析のご紹介(サーモフィッシャーサイエンティフィック)杉立久仁代
4. キャピラリーフローテクノロジーを用いたアプリケーションの紹介(アジレント・テクノロジー)関口桂
5. MDGC/MS システムの環境分析への適用(島津製作所)平岡敬朗
6. GCxGC-MS の環境分析への応用(ゲステル)落合伸夫

第287回ガスクロマトグラフィー研究会—総会と講演会—2008年2月29日、薬業健保会館

1. GC-ICPMS法の開発と燃料中硫黄の高感度分析(産業技術総合研究所)田尾博明
2. バイオディーゼルの分析について(島津製作所)和田豊仁

技術講演

1. キャピラリー・フロー・テクノロジーを用いた燃料分析の紹介(アジレント・テクノロジー)関口桂
2. 油汚染土壌におけるTPH測定の紹介(ダイヤ分析センター)杉田和俊

監修:保母敏行、古野正浩、ガスクロ自由自在Q&A「分離・検出編」、「準備・試料導入編」丸善(2007)を出版
科警研は見学予定であったが外部の見学は不可で講演会となった。

会員は100名程度まで減少したが、研究会参加者は増加傾向にある。講習会(実習付き)を「応用のための基礎」として再開した。

2008年(平成20年度) 288回-295回

第288回ガスクロマトグラフィー研究会—講演会—4月25日、島津製作所東京支店、参加約100名

講演主題:GCカラムの基礎、現状、今後

キャピラリーカラム温故知新

ふだん気づかないキャピラリーカラムのあれこれ—ガスクロ自由自在を中心に(GLサイエンス)古野正浩

技術講演

1. 超薄膜で高耐熱性のPBDE分析用Ultra ALLOY金属キャピラリーカラムの開発に伴う諸現象について(フロンティア・ラボ) 渡辺忠一
 2. 0.18mm内径のカラムの紹介(アジレントテクノロジー) 山本純子
 3. 高感度・迅速GC/MS分析に対応した最新のキャピラリーカラムについて(バリアンテクノロジー) 山下和之
 4. PureWAX及びMonotrapを使用するの香気成分の分析手法の紹介(GLサイエンス) 佐藤睦
 5. マイクロパックドカラムの試作について(信和化工) 小寺 健三
- その他:ピッツバーグコンファレンス報告 大橋委員、神田委員

第 14 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7月 30 日-8 月 1 日、首都大学東京

講義

- ① 「キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論」(都立大学名誉教授)保母敏行
- ② 「キャピラリーガスクロマトグラフィーにおけるカラム、試料注入法」(島津製作所)和田豊仁
- ③ 「ガスクロマトグラフィーにおける試料前処理法、導入法、装置」(GL サイエンス) 武井義之
- ④ 「ガスクロマトグラフィーにおける検出器の原理と使用法」(GC技術研究所) 竹内正博
- ⑤ 「GC/MS の基礎と応用例」(アジレント・テクノロジー) 代島茂樹
- ⑥ 「マスマスペクトル解析の基礎」(日本自動車研究所) 秋山賢一

講義・実習:25名、講義のみ:14名、計39名の受講者があった。

第 289 回ガスクロマトグラフィー研究会－見学会－8 月 22 日、住友精化 千葉工場、参加 13 名

標準ガス製造とその現場

第 290 回東京コンファレンス、ガスクロマトグラフィー講習会、9 月 3 日、幕張メッセ国際会議場、参加 150 名

プロが教えるガスクロ自由自在

1. 目からうろこの GC 理論(GC 技術研究所)竹内正博
2. 現場で役立つマスマスペクトルの解析、もっと知りたい GC/MS の話 (日本自動車研究所)秋山賢一
3. キャピラリーカラムと、その試料導入法(やさしい基礎理論と間違いない選び方(GL サイエンス) 古野正浩

第 291 回ガスクロマトグラフィー研究会－講演－9 月 10 日、日本分析化学会第 57 年会、福岡大学、参加 30 名

GC/MS 用全自動同定・定量データベースシステム(AIQS-DB)の開発と環境試料への適用(北九州市大) 門上希和夫

第 292 回ガスクロマトグラフィー研究会－日中韓環境分析研究交流会シンポジウム－11 月 2 日-5日、厦門大学(中国)

40 周年記念事業として始まった海外交流の 7 回目で、CJK Symposium の形になって 5 回目の開催です。開始以来事務局を務め、本部及び SS のグループと環境分析研究懇談会が協力して開催しています。帰国留学生への支援も効果をあげつつあり、今回は日本から 25 名、韓国から 3 名、中国から約 100 名の参加者があり、発表 75 件(口頭 39 件、ポスター 36 件)、中国・韓国からの参加者の研究レベルも高く、発表分野も多岐にわたり様々な分野で大いに情報交換を行うことができました。分析化学会の支援を頂き、GC、LC、FIA、IC、環境分析懇の委員長及びメンバーの参加を得た他、関連企業をはじめ多くの方々の支援と協力を得ました。現地では島津(中国)と NEDO の支援も得て盛会でした。

第 293 回 Separation Sciences SS2008－講演－11 月 13-14 日、東京理科大学 野田

JST プロジェクトの成果－インクジェット GC 用試料導入、マイクロ AED など－(日大生産工) 中釜達朗
GC の発表 8 件

第 294 回ガスクロマトグラフィー研究会－50 周年特別講演会と表彰－12 月 12 日、工学院大学アーバンテックホール、参加約 150 名、講演主題:ガスクロの過去・現在・未来

特別講演:ガスクロ自由自在、もっと知りたいガスクロの基礎 (GL サイエンス) 古野正浩

技術講演:ガスクロ分析の最前線

1. シリンジニードル一体型固相カートリッジ(MEPS)とその使用例について (SGE) 中島信行
2. Low Thermal Mass (LTM)-GC を用いた最新の 2 次元 GC-MS システム(ゲステル) 笹本喜久男
3. GC-TOFMS 用 EI/FI 共用イオン源の開発と測定例 (日本電子) 生方正章
4. LECO TruTOF HT GC-TOFMS の High Throughput 分析への応用 (LECO ジャパン) 矢島敏行
5. GC/MSMS の「使いみち」と「使い方」(サーモフィッシャーサイエンティフィック) 羽田三奈子
6. ClearView™ バックグラウンド処理ソフトウェアの紹介 (ENV サイエンストレーニング) 奥田泰資
7. FlashGC によるラボ、オンサイトでの VOC の超高速分析(プライムテック) 吉田浩一
8. 定性に検出器特性を生かした GC システムの紹介 (テクノインターナショナル) 田中雅之

主題講演:ガスクロの過去・現在・未来(都立大学名誉教授) 保母 敏行

招待講演

熱分解 GC/MS を有効活用した高分子材料分析システムの開発、創業から現在まで:確固たる学問に裏打ちされた独創的な製品開発とその裏話(フロンティア・ラボ) 渡辺忠一

記念講演

1. 日本のガスクロ 50 年 – 島津製作所の開発の歴史 – (島津総合分析試験センター) 塩見紘一
2. 日本のガスクロ 50 年 – キャピラリー GC の普及と発展 – (アジレント・テクノロジー) 川上肇
3. 日本のガスクロ 50 年 (GL サイエンス) 外丸勝彦

表彰講演

技術功績賞:クロマトグラフィーと歩んだ 46 年(日本分析工業) 大栗直毅

奨励賞:GC 大量注入法の開発とその展開について(アイスティサイエンス) 佐々野僚一

研究功績賞:Preconcentration of PAHs in environmental samples and analysis with gas chromatography-mass spectrometry (清華大学) 林金明

第 295 回ガスクロマトグラフィー研究会－総会と講演会－2009 年 2 月 27 日、産総研臨海副都心センター

講演主題:ガスクロマトグラフの多様性と可能性

スプリット・スプリットレス導入は正しく使われているか? (島津製作所) 和田豊仁

技術講演:ガスクロの多様な試料前処理方法、試料導入システム、多様な選択性検出器と使い方

ガスクロの多様な試料前処理方法、試料導入システムと使い方

1. NeedlEx による気体試料の濃縮及び加熱脱離注入 (信和化工) 松浦壽
 2. 急速加熱・急速冷却可能な GC 注入口の応用について (ジーエルサイエン) 武井義之
 3. ダイナミックヘッドスペース(DHS)とその応用 (ゲステル) 家田曜世
 4. キャピラリーカラムスイッチングの技法を用いた大量注入法のダイオキシン分析への応用 (SGE) 大橋眞
- ガスクロの多様な選択性検出器と使い方

1. 非放射線源 ECD 検出器と応用 (ジェイ・サイエンス・ラボ) 豊浦行雄
2. GC の多様な選択性検出器とその利用 (テクノインターナショナル) 村田高明
3. Agilent 化学発光型検出器 SCD/NCD の紹介 (アジレントテクノロジー) 関口桂

研究懇談会設立 50 周年を記念して研究会を支援頂いた多くの方に報いるため表彰を行った。

ガスクロ自由自在の出版を機に東京コンファレンスの講習会を入門編に模様替えしたところ好評であった。

キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会に秋山委員の実践的な話題を追加した。

研究会 300 回開催準備に入る。アーカイブと記念誌担当は渡辺征夫委員、竹内正博委員。

2009 年(平成 21 年度) 296 回-300 回

第 296 回ガスクロマトグラフィー研究会－講演会－6 月 5 日、島津製作所 東京支社

講演主題 :GCMS の使い方と GCMS の最前線

GC/MS 初級講座

1. 始めて GC・GC/MS を購入するときの注意点—GC・GC/MS 導入時の失敗例—(自動車研究所)秋山賢一
2. GCMS の用語について・「GCMS の基本的なイオン化について」(アジレントテクノロジー)代島茂樹
技術講演 各社技術者による講演
1. GC-HRTOFMS を用いた定量分析について(日本電子)生方正章
2. GCxGC-TOFMS の網羅的スクリーニング分析への応用(LECO)矢島敏行
3. MagneTOF, TOF-MS 用の最新高性能マグネティック型イオン検出器(SGE ジャパン)藤井大将
4. 四重極型 GC-MS における精密質量スペクトルと最新の 2 次元 GC 技術」(ゲステル)落合伸夫
5. GC/MS/FPD を用いる食品中残留農薬の高速スクリーニング分析(アジレントテクノロジー)穴沢秀峰
6. GC/MS によるアミノ酸の迅速分析法(島津製作所)宮川治彦
7. アルカリ付加イオン化とキラルカラムの組合せ—光学異性体の分離定量での有用性について(GL サイエンス)武井義之

第 15 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会、7 月 29-31 日、首都大学東京

第 297 回ガスクロマトグラフィー研究会 —見学会と講演—8 月 20 日、海洋研究開発機構、参加 20 名
海洋地球研究船「みらい」での高精度化学分析」(地球環境変動領域海洋環境変動研究プログラム)村田昌彦

第 298 回日中韓分析研究交流会— 2009 年日中韓シンポジウム—、9 月 1,2 日、幕張メッセ、参加約 80 名
2009 China-Japan-Korea Symposium on Analytical Chemistry 日中韓分析化学の最前線
中国、韓国から 20 名を超える参加を得て盛況であった。SS のグループに環境分析研究懇談会が加わり発表件数も多く、交流も密に図ることができた。

第 299 回 東京コンファレンス、ガスクロマトグラフィー講習会、9 月 2 日、幕張メッセ、参加約 130 名 プロが教える“ガスクロ自由自在”

1. 目からうろこの GC 理論(GC 技術研究所)竹内正博
2. 現場で役立つマススペクトルの解析:もっと知りたい GC/MS の話(自動車研究所)秋山賢一
3. キャピラリーカラムと、その試料導入法:やさしい基礎理論と間違いない選び方(GL サイエンス)古野正浩

第 300 回ガスクロマトグラフィー研究会—講演—9 月 24 日、日本分析化学会第 58 年会、北海道大学、参加 30 名
有機エアロゾルの組成・起源・変質と地球環境の影響(北海道大学)河村公隆

第 301 回 Separation Sciences SS2009—講演—10 月 23 日、東洋大学
GC 及び GC/MS による揮発性有機物(VOC)のモニタリング(東京理科大)安原昭夫

第 302 回ガスクロマトグラフィー研究会—300 回記念特別講演会—12 月 11 日、江戸東京博物館ホール

付録 2. 講習会の歩み

第1回目と第15回目の会告とぶんせき誌掲載の報告書を下記に収録します。全ての紹介ができませんが、実習では多くの企業の方々の協力、トレーナーとして説明にあたって頂いた企業の方々、支援を頂いた運営委員の方々に感謝いたします。

キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会 会告（第1回目）

主催 日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

ガスクロマトグラフィーはパックドカラムからキャピラリーカラムへと進展しつつあります。最近、環境分析、食品分析、薬物分析等の応用分野にキャピラリーGCが続々と採用され、GCといえばキャピラリーGCを指すまでになってきました。このような時代の流れを背景に“パックドGCは使用しているがキャピラリーGCは未使用の人”、“キャピラリーGCは使用しているが、ノウハウを十分会得していない人”を対象に、実習を中心とする講習会を開催します。

期日 7月19日（水）～21日（金）

会場 東京都立大学工学部「八王子市南大沢 1-1. 電話：0426-77-1111」

日程 第1日（講義）10時～17時

第2日・第3日〈実習〉10時～17時

講義

- (1) 最新のキャピラリーGCと今後の展開（都立大工） 保母敏行
- (2) 分離理論と分離の評価（公衆衛生院） 渡辺征夫
- (3) 定性・定量の理論と実際（元物質工研） 竹田一郎
- (4) カラムの進歩（フロンティアラボ） 渡辺忠一
- (5) 注入技術の進歩（島津） 齋藤壽
- (6) 試料導入技術の進歩（GLサイエンス） 古野正浩
- (7) 検出器の進歩（都立衛研） 竹内正博
- (8) 最新の GC/MS（東レリサーチセンター） 井垣浩侑

実習内容及び講師・指導員

- (1) 各種注入及び導入技術の実際（都立大工） 保母敏行
- (2) カラム選択と分離の最適化（元物質工研） 竹田一郎
- (3) 検出器の特性評価と実試料への通用（公衆衛生院） 渡辺征夫
- (4) GC/MSによる同定及び定量（都立衛研） 竹内正博

受講料：会員 45,000円、会員外 50,000円。 講義のみ：会員 15,000円、会員外 25,000円

募集人員 40名。講義のみ若干名（定員になりしだい締め切ります）

第1回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会開催報告（ぶんせき誌投稿）

ガスクロマトグラフィー研究懇談会主催の標記講習会が、日本分析化学会関東支部との共催で7月19日から21日の3日間、東京都立大学工学部で開催された。本講習会は今年度より始められたもので、講習会と実習から成る。開催にはガスクロマトグラフィー研究懇談会の運営委員が全員で取り組んだ。環境分析、食品分析、薬物分析等の応用分野にキャピラリーGCが続々と採用され、GCと言えばキャピラリーGCを指すまでになってきている現状を踏まえて、初日の講演会ではキャピラリーGCの最近の進歩に焦点を合わせた。また、2,3日目の実習ではパックドGCは使用しているがキャピラリーGCは未使用の人、キャピラリーGCを使用しているがノウハウが分からない人などを対象に、基礎的事項に重点を置いたものにした。計画当初、参加人数の目算が全く立たない状態であったが、少人数でも決行することを確認し、委員一同全力投球することにした。幸い予想以上の反響があり、講演会には約70名、実習には48名の参加者があり心配も吹き飛んだが、それだけ責任が増し、準備が大変であった。講演会は、保母敏行氏（都立大工）による「最新のキャピラリーGCと今後の展開」で開事した。GCの発展の歴史に端を発し、キャピラリーカラムや検出器の現状と今後の展開、またユニファイドGCやミニチュアGCへの進展についての興味深い内容であった。次に、渡辺征夫氏（国立公索行生院）が「分離理論と分離の評価」と題して、保持値やピーク形状はどのような因子で定まるのか、またクロマトグラムの分解能は何に規定されているのか、について構義した。続いて、竹田一郎氏（元物質研）による「定性・定量の理論と実際」が講義された。特に、定性分析の項においては、保持値の測定法、保持値の対数と物質構造など、氏のこれまでの研究成果を引用しながら分かりやすく解説された。午後は渡辺忠一氏（フロンティア・ラボ）による「カラムの進歩」から始まった。カラムをGCの心臓部に例えた講義は、長年カラム開発を手掛けている氏の含蓄の深さを感じさせるものであった。午後の2番目は齋藤壽市（島津製作所）が「注入技術の進歩」と題して、キャピラリーGCにおいて使用されている各種試料注入法について講義した。次に、古野正浩氏（GLサイエンス）が「試料事入技術の進歩」について、マイクロシリッジを使用しない各種の試料事入法に焦点を当てた講義を行った。続いて、筆者が「検出器の進歩」について、検出器特性を中心にTCDから最近の各種高選択性検出器までを講義した。最後に、井垣浩佑氏（東レリサーチセンター）による「最新のGC/MS」に関する講義があり、ダイオキシン分析を中心としたGC/MS分析の最近の流れと今後の展望が解説された。

2,3日目は次の4テーマでの実習が行われた。1) 各種注入及び導入技術の実際：スプリット注入、スプリットレス注入、ワイドボアカラムによる全量注入について、カラム流量やスプリット比の設定法、カラム負荷量現象及び溶媒効果の確理などについて実習。2) カラム選択と分極の最適化：初めに理論段数、HETP、保持指標の求め方、次いで極性の異なるカラムの比較、カラムディメンジョンの比較、等温測定と昇温測定の比較などについて実習。3) 検出器の特性評価と実際試料への適用：炭化水素と有機リン化合物をFID及びFPDで測定し、検出器特性を比較。また、PIDによる排ガス中の一酸化炭素及びメタンの定量を実習。4) GC/MSによる定性及び定量：未知の混合試料についてSCANモードでGC/MS分析を行い、データ検索機能を用いて各成分を同定。次に、SIMモードによる測定を行い、未知成分の定量分析について実習。

実習終了後に集められたアンケートを集計した結果、回答者の全員(41名)が今回の講習会が有意義であったと感想を述べていた。また、講義及び実習の内容については、おおむね満足であったとの回答が約7割を占めていた。ただし、講義が詰まりすぎていて時間の余裕がなかったことや、人数が多すぎて装置に触れる機会が少なかったことの指摘もあった。また、GC/MSやアプリケーションについては別に講習会をやってもらいたいなどの要望も出された。

今回初めての講習会をどうにか無事終了することができ、運営委員一同、胸をなで下ろしたところであるが、来年はこれらの意見を組み込んで、更に充実した講習会にしたいと思っている。最後に機器の提供において大変お世話になった島津製作所、日製産業、横河アナリティカルシステムズの各社にあらためて深謝致します。

東京都立衛生研究所 竹内正博

第15回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会
—応用（アプリケーション）のための基礎—

主催 日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会
共催 日本化学会、日本薬学会

日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会では例年夏期に、実習を中心としたキャピラリーガスクロマトグラフィーの講習会を開催しています。これまで14回開催し約500名の方々が参加され、アンケート等でも高い評価を頂いております。今年は昨年に引き続き、「応用（アプリケーション）のための基礎」というテーマでキャピラリーガスクロマトグラフィーを実践する上での重要な項目につき講義と実習を下記のように開催いたしますので奮ってご参加下さい。

期日 7月29日(水)～7月31日(金)

会場 首都大学東京、国際交流会館中会議室（八王子市南大沢1-1、交通：京王相模原線
「南大沢」駅下車10分、電話：0426-77-1111）

プログラム

第1日(7月29日)＜講義＞ 10時～18時(予定)

- (1) キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論（都立大学名誉教授）保母敏行
- (2) キャピラリーガスクロマトグラフィーにおけるカラム、試料注入法（島津製作所）和田豊仁
- (3) ガスクロマトグラフィーにおける試料前処理法、導入法、装置（GLサイエンス）安藤晶
- (4) ガスクロマトグラフィーにおける検出器の原理と使用法（GC技術研究所）竹内正博
- (5) GC/MSの基礎と応用例（アジレント・テクノロジー）代島茂樹
- (6) マススペクトル解析の基礎（日本自動車研究所）秋山賢一

第2日・第3日（7月30日・7月31日）＜実習＞ 10時から16時

テーマ1：試料注入法

テーマ2：GCにおける分離、カラムの選択

テーマ3-1：試料の前処理・導入法（誘導体化）

テーマ3-2：試料の前処理・導入法（パイロライザーを使用した熱分解GC）

テーマ4-1：GC/MS（定性分析の実際）

テーマ4-2：GC/MS（定量分析の実際）

（注）プログラム（講義の講師含む）および実習テーマは変更になることがありますので、ホームページにてご確認ください。

なお、実習のテーマ3,4につきましては申し込み時に2つのテーマの中からどちらかを選んでいただきます。また希望者の関係で必ずしもご希望にお答えできない場合がありますのでご承知おき下さい。

実習指導は研究懇談会委員長 前田恒昭 以下、多数の運営委員が行います。また装置の操作等はメーカーのトレーナーの方に御協力頂きます。

受講料 研究懇談会会員（共催学会会員含む）45,000円、会員外50,000円、
講義のみ：会員15,000円、会員外20,000円

交流会 7月30日、Q&Aを含む情報交換会

募集人員 40名 講義のみ 若干名（いずれも先着順）

申込方法 参加希望者は氏名、勤務先、電話番号、実習(3)(4)の希望コース、を必ず記入し、FAXまたはE-mail
で下記あてお申し込み下さい。

申し込み先 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

「電話：03-3490-3351、FAX：03-3490-3572」

なお、最新情報は随時、ガスクロマトグラフィー研究懇談会のホームページ (<http://www.jsac.or.jp/~gc/>) をご覧下さい。
日本分析化学会のホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsac/>) とリンクしております。

キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会概要

講義と実習からなり、短期間のうちに多くの事が経験できます。実習では数名のグループに分かれ実際にインストラクターの手ほどきにより実験を行ないます。その際に、GC 懇の運営委員がインストラクターの方と共に理解を深める手助けをします。交流会では運営委員、インストラクターの方や参加者同士の情報交換を行ないます。以下簡単に概要を紹介します。

1. 講義編

講義編は6項目からなります。

- ①キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論
クロマトグラフィーの分類と GC に位置づけ、GC の構成、試料導入についての説明の後、理論的な背景となる分配、分離のメカニズムの説明を行ないます。また GC による定性、定量についても説明します。
- ②キャピラリーガスクロマトグラフィーにおけるカラム、試料注入法
実際の測定の要となるキャピラリーカラムとその選択、キャリアーガス、試料注入システム（スプリット注入、スプリットレス注入、全量注入、オンカラム注入等）について順次、説明します。
- ③ガスクロマトグラフィーにおける試料前処理法、導入法、装置
GC 本体と深いかわりがあり、実際の測定を行っていくうえで、GC の適用範囲を大きく拡張する重要な役割を担う、各種前処理・導入装置や関連する手法について説明します。
- ④キャピラリーガスクロマトグラフィーにおける検出器の原理と使用法
GC で使用される各種検出器の分類と応答特性、性能評価等について説明します。また主な検出器として TCD, FID, TID (NPD), ECD, FPD について原理、特徴を説明します。
- ⑤GC/MS の基礎と応用例
GC/MS の各構成要素の GC 部、イオン化部、アナライザー、検出器等の説明のほか、実際の測定手順、定性、定量の方法について説明します。また、代表的なアプリケーション例を紹介します。
- ⑥マススペクトル解析の基礎
マススペクトルの見方(読み方)、解析の仕方、注意点等を実際の現場での対応に即して説明します。

2. 実習編

- ①テーマ1では「試料注入法」について実習します
実機を用いてスプリット注入法、スプリットレス注入法、全量注入法を行い、それぞれの特徴を把握して頂きます。
- ②テーマ2では「GCにおける分離、カラムの選択」について実習します
測定したクロマトグラムから各種カラムパラメータを求め、また膜厚を変えた場合のクロマトグラムから対象成分の保持がどう変化するかを検証して頂きます。
- ③テーマ3-1では「試料の前処理・導入法」の一つとして「誘導体化」の実習します
各種試料、誘導体化剤を用いたエステル化、TFA 化、TMS 化について行い、一部については誘導体化前後の比較も行なって頂きます。
- ④テーマ3-2は「パイロライザーを使用した熱分解 GC」について実習します
発生ガス分析法によるポリマー組成の簡易分析、ダブルショット法によるポリマー組成の詳細分析の二

つの方法を行なって頂きます。

⑤テーマ 4-1 は「GC/MS」の「定性分析の実際」について実習します

標準試料を用いたマススペクトルの測定とライブラリーサーチの練習、実試料中の各ピークの定性を行なって頂きます。

⑥テーマ 4-2 は「定量分析の実際」について実習します

農薬標準試料によるマススペクトルの測定とターゲットイオン、確認イオンの選択、SIM 測定による検量線の作成、実試料を用いた定量を行なって頂きます。

以 上

第 15 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会開催報告（ぶんせき誌）

首都大学東京の工学部学生実験室をお借りして開催している本講習会は15回目を数え、3日間の講習（講義1日、実習2日）を行った。首都大学の内山先生、香川先生、日大の中釜先生と研究室の学生の協力を得て、アジレントの代島副委員長が実行を指揮し、運営委員の企業（島津製作所、アジレント、GLサイエンス、フロンティア・ラボ、東京化成工業、テクノインターナショナル）がトレーナーと機材を提供し講習に当たった。受講者25名（内講義のみ2名）で、1日かけて分離の基礎理論、試料導入、各種試料導入機器、検出器、GC/MSの基礎、スペクトルの読み方などの講義を行い、その後2日間の実習に入った。キャピラリーガスクロの全体を理解するための基礎講習であり、普段使っている装置の中で何がおこっているか、教科書に書いてあることと実際に得られる結果とのつながりなどが理解される内容で、受講者らにも満足いく講習会であった。講義1日はちょっと短く、もう少し詳細な内容を知りたいという要望や、東京以外でも開催できないかといった要望もあり、これからの講習会を考える参考となった。学会ならではの講習内容を15年間維持し、それなりの効果も得られており、この講習を機に実習用のテキストを編纂中であり、間もなく出版する予定である。

本年の実習にご協力いただいた首都大学の内山先生、香川先生、日本大学の中釜先生並びに企業の方々、運営委員の方々の多大なるご支援に深謝いたします。

前田 恒昭（（独）産業技術総合研究所）

付録 3. 記念事業の紹介 (40周年、50周年)

40周年記念講演会 (第239回ガスクロマトグラフィー研究会)

主催 日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会

協賛 イオンクロマトグラフィー・フローインジェクション分析・電気泳動分析・液体クロマトグラフィー研究懇談会

後援 日本分析機器工業会

期目 2000年6月7日(水) 13時30分～20時

会場 北トピア 7階第一研修室〔東京都北区王子1-11-1 03-5390-1100〕

交通：JR京浜東北線「王子」駅下車徒歩2分

プログラム目次

I 記念講演

1. GCによる環境分析の変遷、歴史と未来 (横浜国立大学名誉教授) 加藤龍夫
2. GC/MS法による定量分析の実用化と発展 (成蹊大名誉教授) 飯田芳男

II 受賞講演

1. 大気中および排ガス中の揮発性有機化合物の分析 (国立公衆衛生院) 渡辺征夫
2. 多目的パイロライザーと金属キャピラリーカラムの開発 (フロンティア・ラボ) 渡辺忠一
3. GCによる有機スズ化合物の高感度・迅速分析 (東京都立衛生研究所) 竹内正博

III 広告 (アイウ順)

株式会社イーエスディーラボラトリ、財団法人化学物質評価研究機構、関東化学株式会社、株式会社クロマトテック、サーモクエスト株式会社、GLサイエンス株式会社、シグマアルドリッチ・ジャパン株式会社、株式会社島津製作所、ジャスコインターナショナル株式会社、電気化学計器株式会社、東京化成工業株式会社、日本サーモエレクトロン株式会社、日本電子株式会社、日本分析工業株式会社、株式会社パーキンエルマー・ジャパン、株式会社日立サイエンスシステムズ、フロンティア・ラボ株式会社、株式会社ユニフレックス、横河アナリティカルシステムズ、株式会社ヤナコ分析工業株式会社

IV 会員名簿

V 資料

記念パーティ (18 : 00 - 20 : 00)

40周年記念表彰者(社)

ガスクロマトグラフィー研究功績賞 国立公衆衛生院 渡辺征夫、(株) フロンティア・ラボ 渡辺忠一
都立衛生研究所、竹内正博

ガスクロマトグラフィー技術功績賞 GLサイエンス株式会社、株式会社島津製作所、株式会社日立サイエンスシステムズ、横河アナリティカルシステムズ株式会社

ガスクロマトグラフィー貢献賞 株式会社大倉理研、財団法人化学物質評価研究機構、関東化学株式会社、株式会社クロマトテック、サーモクエスト株式会社、シグマ・アルドリッチ・ジャパン株式会社、ジャスコインターナショナル株式会社、電気化学計器株式会社、東京化成工業株式会社、日本サーモエレクトロン株式会社、日本電子株式会社、日本分析工業株式会社、株式会社パーキンエルマー・ジャパン、フロンティア・ラボ株式会社、株式会社ユニフレックス、ヤナコ分析工業株式会社

名誉会員 横浜国立大学名誉教授 加藤龍夫、成蹊大学名誉教授 飯田芳男

GC懇設立50周年特別講演会「ガスクロの過去・現在・未来」の案内

—第 294 回ガスクロマトグラフィー研究会—

- 主催** (社) 日本分析化学会 ガスクロマトグラフィー研究懇談会
協賛 (社) 日本化学会ほか
期日 12月12日(金) 10時~20時
会場 工学院大学 高層棟3階 アーバンテックホール [東京都新宿区西新宿1-24-2]
交通: JR「新宿」駅西口下車徒歩5分、京王線、小田急線地下鉄各線「新宿」駅下車徒歩5分、地図: <http://www.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html>
- 講演主題** 「ガスクロの過去・現在・未来」
- 開会挨拶** (10:00) (GC懇委員長) 前田恒昭
- 特別講演** (10:00~10:30)
ガスクロ自由自在、もっと知りたいガスクロの基礎 (GLサイエンス) 古野正浩
- 技術講演** (10:30~12:30) ガスクロ分析の最前線 協賛企業各社
- 企業展示** (10時から16時30分) アーバンテックホール前
- 主題講演** (13:30~14:00) ガスクロの過去・現在・未来 (東京都立大学名誉教授) 保母敏行
- 招待講演** (14:00~15:00)
熱分解GC/MSを有効活用した高分子材料分析システムの開発
創業から現在まで: 確固たる学問に裏打ちされた独創的な製品開発とその裏話
(フロンティア・ラボ) 渡辺忠一
- 記念講演** (15:00~16:00) テーマ「日本のガスクロ50年」
(島津総合分析試験センター) 塩見紘一・(アジレントテクノロジー) 北村明弘
・(GLサイエンス) 外丸勝彦
- 表彰講演** (16:00~17:00) 技術功績賞 (日本分析工業) 大栗直毅
・奨励賞 (アイスティサイエンス) 佐々野僚一・研究功績賞 (精華大学) 林金明
- 表彰式** (17:00~18:00)
- 研究功績賞**
齋藤壽 (島津製作所)
竹内正博 (GC技術研究所)
保母敏行 (東京都立大学名誉教授)
林金明 (清華大学教授)
渡辺征夫 (国立保健医療科学院)
- 技術功績賞**
アジレントテクノロジー、ゲステル、GLサイエンス、島津製作所、西川計測、日本分析工業、日立ハイテクノロジー、フロンティア・ラボ
- 貢献賞**
アイスティサイエンス、SGE、化学物質評価研究機構、
サーモフィッシャーサイエンティフィック、GC技術研究所、島津ジーエルシー、
テクノインターナショナル、東京化成工業、日本電子、パーキンエルマー・ジャパン、
バリアンテクノロジー・ジャパンリミテッド、LECOジャパン
- 奨励賞**
安藤晶 (GLサイエンス)
「ガスクロマトグラフとその周辺装置の応用開発」に関する研究
落合伸夫 (ゲステル)

「2次元GC技術とハイフネーション」に関する研究

佐々野僚一（アイスティサイエンス）

「GC大量注入法の開発とその展開」に関する研究

中村貞夫（アジレントテクノロジー）

「GC/MSによる水試料中の微量汚染物質の高感度分析法」に関する研究

古川雅直（島津製作所）

「MDGCシステムの開発」に関する研究

穂坂明彦（フロンティア・ラボ）

「多機能型熱分解を用いた応用研究」に関する研究

付録 4. 国際交流

多くの方々の協力を得ていろいろな交流を行なった。国際学会や展示会の参加報告、研究者の交流など幅広い活動を展開してきた。運営委員、会員の国際的な活動がこの事業を支えている。一部記録が失われているが、できる限り詳細な活動報告をホームページに掲載する。

1999年11月8日、40周年記念、海外研究者を招待し講演会開催（日本）

2000年2月25-28日、中華民国環境分析学会と交流、台北（台湾）

2001年6月14日、セパレーションサイエンスで（国立台湾師範大学）呉教授招待講演（日本）

2002年10月24-27日、GC研究懇談会 250回記念「日中環境分析化学研究会」、北京（中国）

2003年10月16-19日、ガスクロ生誕50周年記念「日韓分離研究懇談会」、ソウル（韓国）

2004年10月18-21日、2004日中韓シンポジウム、北京（中国）

2005年9月1日、2005日中韓シンポジウム、幕張（千葉）

2006年9月14-18日、2006日中韓シンポジウム、重慶（中国）

2007年11月5-7日、2007日中韓シンポジウム、齊州島（韓国）ASIANALYSISの特別セッションとして開催

2008年11月2-5日、2008日中韓シンポジウム、アモイ（中国）

2009年9月1,2日、2009日中韓シンポジウム、幕張（千葉）

付録 5. 資料
研究懇談会規約

ガスクロマトグラフィー研究懇談会規約

(名称)

1. 本研究会は、社団法人日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会と称する。

(目的)

2. 本研究懇談会は、ガスクロマトグラフィーに関連する学術と応用技術の進歩・普及をはかるため、文献紹介、情報交換、共同研究、見学会並びに相互親睦を行うことを目的とする。

(事業)

3. 本研究懇談会は、前項の目的を達成するため次の事業を行う。

①定期的に懇談会を開催し、内外の主要雑誌の紹介などを行う

②見学会、講習会、講演会等の開催

③共同研究の実施

④関連資料・研究成果の配布あるいは刊行

⑤その他

(運営)

4. 本研究懇談会は委員長と運営委員を置き、運営委員会により本研究懇談会の企画及び運営を行う。又、必要に応じて委員長を補佐する副委員長及び臨時委員を選出して事業を行う。

(会員並びに会費)

5. 本研究懇談会の会員は、個人会員及び団体会員から成り、1口3,000円として下記の区分によって会費を納入する。

1) 日本分析化学会個人会員 年額 1口

2) 日本分析化学会団体会員 年額 2口以上

3) 日本分析化学会団体会員にして
クロマトグラフ関連事業者 年額 5口以上

本研究懇談会で開催する定期懇談会以外の事業への参加費用は別途定める。

(表彰)

6. 本研究懇談会は、ガスクロマトグラフィーに関し功績のあった者及び本研究懇談会に対し特に功労のあった者を、表彰委員会で選考の上運営委員会の承認を得て、これを表彰することができる。詳細は表彰内規により別途定める。

(名誉会員)

7. 本研究懇談会は、ガスクロマトグラフィーに関し功績のあった者及び本研究懇談会に対し特に功労のあった者を、本会運営委員会での承認を得て、名誉会員として選定することができる。詳細は名誉会員内規により別途定める。

(平成17年(2005年)2月18日 改正)

ガスクロマトグラフィー研究懇談会活動紹介 (2002年、ガスクロ生誕 50周年)

ガスクロマトグラフィー研究懇談会
運営委員一同

ガスクロマトグラフィー研究懇談会 (GC 懇) は、1958年に荒木峻、益子洋一郎氏を世話人として分析化学会の研究懇談会として発足しました。我が国でガスクロマトグラフが市販されたのが 1957年で、その翌年に発足しています。懇談会の目的として情報交換、文献の共同収集配布、共通テーマによる共同研究、リテンションデータの整理、ガスクロマトグラフィーの用語の統一などがあげられ、おおむね隔月開催することとなりました。大学、企業、研究所などから多くの会員の参加を得て、1977年に第 100回、1995年には 200回、2003年 8月で 257回を数えるにいたりました。この間のガスクロマトグラフィーの進歩、装置の普及はめざましく、多くの分野と協調しながら発展してきました。

研究懇談会は、時節に合った活動を続け、1995年には GC 懇 200回記念講演を開催し日本における GC の歴史をまとめました。1997年には、ガスクロマトグラフィーの分野で活躍した方々を対象に、貢献をたたえる表彰を始めました。さらに 2000年には創設 40周年を記念した会合を開きました。この時の記念事業の一環として国際交流をはかるために 2001年は台湾、2002年は中国で現地との交流を行いました。2003年は韓国と共催で研究会を開催する予定です。

最近の会の年間活動は次の通りです。

- 4月 例会 (講演会)
- 6月 講演会 (セパレーションサイエンスにて講演と運営)
- 7月 ガスクロマトグラフィー講習会 (講義 1日、実習 2日)
- 8月 見学会
- 10月 例会 (分析化学会年会にて講演会)
- 12月 特別講演会
- 2月 総会、講演会

ガスクロマトグラフィーの講習会は、多くの維持会員会社の協力を得て、都立大学で開催され、既に 9回を数え受講者は延べ 400名を越えております。

この他に、教育・普及活動として「キャピラリーガスクロマトグラフィー」朝倉書店、「CGCにおける試料導入ハンドブック (Dr.Grob 著の翻訳)」丸善、を出版しました。

研究懇談会の会合の後は、懇親を深めるために講演者を囲んで一杯飲むことが慣例となり、情報交換などの場を提供しております。2002年にはガスクロが誕生して 50年を迎えました。研究懇談会を支えている多くの会員、賛助会員の協力に感謝すると共に、新しく参加される方々を加えてこれからの更なる発展を期待しておりますので、ふるってご参加ください。

ガスクロマトグラフィー研究懇談会入会のお誘い 2009年6月3日

ガスクロマトグラフィー研究懇談会は1958年東京都立大学の荒木 峻先生、東京工業試験所（現 産総研の前身）の益子洋一郎博士らにより設立され、今までに通算290回以上の活動を行って参りました。（社）日本分析化学会の研究懇談会の中でも永年継続した活動記録を持つものは少なく、アクティブに活動している研究懇談会の一つとして運営されております。昨年12月12日（金）には50周年を記念した特別講演会を行い、今年の12月11日には300回を記念して特別講演会を企画しています。また、この機に関西地区での活動、ガスクロマトグラフィーに関わる出版事業、会員サービスのための新しい事業等も計画しております。

研究懇談会の目的は、ガスクロマトグラフィーに関連する学術と応用技術の進歩・普及をはかるため、文献紹介、情報交換、共同研究、見学会並びに相互親睦を行うこととあります。会員には講演会・キャピラリーGC 講習会などへの会員特価での参加、研究会への無料参加など様々な特典があります。特に、各イベントの後の意見交換会は最新かつ有益な情報交換の場となっております。是非、この機会に入会をご検討下さい。

【2009年度の年間活動計画】

- | | |
|-----------|---|
| 6月 5日 | 研究会
「GC カラムの基礎、現状、今後」 |
| 7月 29-31日 | キャピラリーGC 講習会（首都大学東京） |
| 8月 20日 | 見学会（海洋研究開発機構）
「地球の未来を求めて」 |
| 9月 1,2日 | 日中韓シンポジウム（JAIMA コンファレンス、JAIMA ショー併設）
「日中韓分析化学の最前線」 |
| 9月 2日 | 東京コンファレンスで講習会（JAIMA ショー併設）
「プロが教える“ガスクロ自由自在”」 |
| 9月 24日 | 分析化学会年会（札幌）GC 懇研究会
「有機エアロゾルの組成、起源、変質と地球環境への影響」 |
| 10月 22日 | セパレーションサイエンス（SS2009）（東海大学）
「特別講演を予定」 |
| 12月 11日 | GC 研究懇談会 300回記念特別講演会（江戸東京博物館ホール） |
| 2月 | 総会・研究会 |

【主な出版物】

ガスクロ自由自在（上下巻）、丸善。キャピラリーガスクロマトグラフィー、朝倉書店。

【会 費】

1口 3,000円として、

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 1) 日本分析化学会個人会員 | 年額 1口 |
| 2) 日本分析化学会団体会員 | 年額 2口以上 |
| 3) 日本分析化学会団体会員にして
クロマトグラフ関連事業者 | 年額 5口以上 |

【ホームページ】

懇談会の詳細な内容につきましては、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.jsac.or.jp/~gc/>

【申し込み先】

（社）日本分析化学会 GC 研究懇談会担当 田中 久光

ガスクロ研究懇談会の活動紹介、2005年度（英語版）

Introduction of Gas Chromatography Discussion group (Year 2005)

Under associated The Japan Society for Analytical Chemistry. Established 1958

Introduction

Our discussion group objected to contribute progress of the science and technology associated with GC for the members and researcher in Japan. Activities of our group are information exchange, corporate research, training, publishing and meeting for good communication.

Organizing committee are managed by voluntary members and supported by member company. Number of member are over 200. Our discussion group was founded by Prof. S. Araki, Dr. Y. Mashiko, Prof. M. Maruyama and Dr. T. Takenishi just next year of the first commercial GC sold in Japan at 1957. First generation was organized till 1980, then, next generation followed till 1991. 1980's progress of capillary column technique and GC/MS energized activity of GC discussion group. The third generation faced crisis of the loss of the academic member. The research and development moved far away from the fundamental research at university laboratory. Instead of the requirement of the tremendous number of the application field, the number of the research laboratory in university are decreased. GC field have a lot of interesting theme for research, such as selective or universal detector, stationary phase, sample introduction and high throughput analysis. We are expecting for young researchers jump into GC research field and work together.

Activity

1. Periodical lecture and discussions

6 times / year

Lecture for the GC analysis, topics, application and introduction of the instrument.

Visiting tour for research laboratory, factory or related facility.

2. Education for the fundamental lecture of GC with practice

Annually, End of July,

Lecture for the fundamental part of GC : one day,

Practice : 2 day (GC and GC/MS)

3. Publishing

Capillary Gas Chromatography, Asakura shoten, 1997, Japanese

Guidebook for Sample Introduction Technique, Capillary Gas Chromatography,

Maruzen, 1999, Japanese, Translation, written by Konrad. Grob. Discussion group for

4. Recent international meeting.

2002China-Japan symposium on environmental analytical chemistry (Beijing)

2003Korea-Japan symposium on gas chromatography (Seoul)

2004China-Japan-Korea symposium on environmental analytical chemistry (Beijing)

Organization Committee

Char:

Prof. Dr.Toshiyuki Hobo, Emeritus Professor of Tokyo Metropolitan Univ.

Vice chair:

Dr.Tsuneaki Maeda, National Institute of Advanced Industrial Science & Technology

Dr.Kazuko Mizuishi, Institute of Tokyo Metropolitan Research Laboratory of Public Health

歴代委員長,副委員長

1995、6年度（都立大学）保母敏行

1997、8年度（都立衛生研究所）竹内正博

1999、2000年度（都立衛生研究所）竹内正博

2001年度（都立衛生研究所）竹内正博のJICA長期専門家派遣が決定し(都立大学) 保母敏行に交代

2002、3年度（都立大学）保母敏行、補佐として副委員長(産総研)前田恒昭、(都立健康安全研究センター)水石和子をおく

2004、5年度（都立大学名誉教授）保母敏行、副委員長(産総研)前田恒昭、(都立健康安全研究センター)水石和子

2006、7年度（都立大学名誉教授）保母敏行、副委員長(産総研)前田恒昭、(アジレントテクノロジー)代島茂樹

2008、9年度（産総研)前田恒昭、副委員長(アジレントテクノロジー)代島茂樹、(島津製作所)和田豊仁

運営委員及び担当一覧

ホームページ(分析化学会のGC懇と竹田先生のアーカイブ)